

大佛ノ獅子吼院様法親王ニ御出ノ次手、常修院様へ立寄テ、一服タベタシトテ菓子ノ茶ニアイタリ、右ノ通リニテカハルコトナシ、菓子ハハシヤギモノヲ出サレタリ、總ジテ茶ノカヘリトカナニゾニテ立寄ル人ニハ、急度菓子ハ出サヌガヨシ、ハシヤギモノナド然リ、先ノ茶菓子ニサシアハヌヤウニシタルガヨシ、菓子ニテ一服タベタシナド云送ルニハ、ス、リダンゴ、ゼンザイ、或ハ吸物杯出スコトモアルベシト仰セララル、

不時會

〔茶道筌蹄一〕茶會

不時 兼約なしに、差かゝりて催すゆへ、道具萬端心得荒ましなり、

〔南方錄二〕不時之會 急接共云

朝晝夜三時の外を不時と云、朝飯後にも門前を通掛に云入て、一服と所望の事あり、是急接也、露地は手水鉢の水改むるまでにて、早く案内をすべし、中立前露地内外雪隠等、水たふくと打べし、床臺目共に薄茶の棗杯、棚にありの儘にて呼入、炭加へて濡釜に改、あぶり昆布水栗の類茶請に出し、引合たる濃茶あらば濃茶にすべし、さなくば薄茶を眞にはたらきてよし、炭の時棚の棗茶は取入べし、後座掛物巻て客へ花所望すべし、又は初座花ならば取入て、秘藏物杯外題をかざりてもよし、ケ様の事時宜に寄べし、必と云にはあらず、急接の時、にしめの類茶請に出す事ひが事也、我食事の殘の様に惡し、利休壯年、奈良住人宗泉と云者、不圖不時に一服所望しけるに、煮染の茶請出され、後悔のよし、度々門弟子に語られしとかや、又は前日前々日にても、朝飯後何時比御茶被下候へと申入、又は主よりも不時に一服と約諾したるは、露地數寄屋のもうけ常の會同前也、少宛の心持は、主の作用分に寄べし、勿論煮染の類、又は吸物にて一獻、何にても茶菓子心次第也、不時の會いかにも秘藏の道具杯、一色も二色も出し、所作眞にすべし、心は草がよし、

跡見會

〔茶道筌蹄一〕茶會